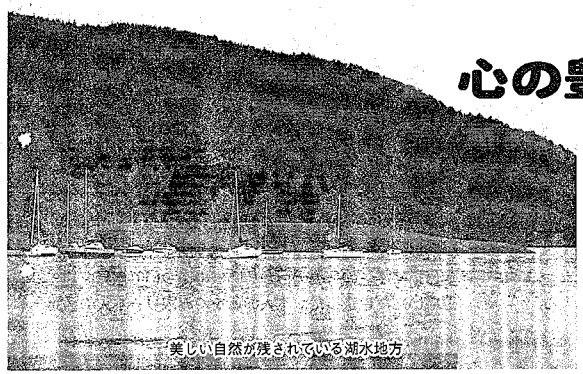
# 心の豊かさを求めて

## 市民海外派遣研修報告①


美しい自然が残されている湖水地方

今年の研修地はイギリス。「歴史と創造のまち～心の豊かさを求めて～」をテーマに実施され、公募の市民8名が参加しました。10月1日から8日まで8日間の日程で、生涯学習が進むイギリス（ロンドン）、美しい自然を保護する湖水地方、古書の街ヘイ・オン・ワイを歩いてきました。

今号から3回にわたり、参加者のリポートの要旨をご紹介します。

### イギリス湖水地方を訪ねて
### ～ナショナル・トラストが支えるもの～

熊倉 満喜（さつき野町）

熊倉さん

ナショナル・トラストとは「歴史的見地から見て価値のある建造物・庭園や手をつけずに残しておくべき自然を保護するための民間組織」である。ピーターラビットの作者であるビアトリクス・ポターは湖水地方をこよなく愛し、絵本による収入でヒルトップ農場などを買い取り農業を営み、そして遺言によりそれらをナショナル・トラストに寄付した。百年が過ぎた今もニアソーリー村では、ポターが絵本に描いたそのままの風景を見ることができる。

イギリスに関わらず欧米に行くと、「自分の街」という強い住民意識によって街が支えられているのを感じる。現地ガイドの方の「イギリスではまず『住』にお金をかけます。」という言葉と「日本は都会志向の強い国でしょ。イギリス人は田舎が好きです。」という二つの言葉が印象的だった。日本人は「見えないところは…」的な考えはまだ残っていて「住」に対する意識は低い。公共の物に対しての意識も低い。都会志向というのも当たっていて、日本では「田舎」という言葉は褒め言葉としては使われない場合が多い。

経済的には豊かになり、欧米のブランド品で身を飾り、都会に憧れるが、自分の住む街はゴミだらけ、家は花も無い、生活できればいいだけの空間。それは豊かになった日本のバランスの悪さであり、それこそ「田舎者」と言うべきであろう。住む場所に関係なく、その人の心の豊かさが問題なのだと私は思う。

イギリスでナショナル・トラストの年会費は四十一ポンド、日本円では八千円弱。現在の会員数は二百二十万人、会員の印である樫の木のステッカーをつけた車をあちこちで見かけるのもうなずける。イギリスの消費税は一七・五%。私ならいくら街づくりのために出せるんだろう。個人の利潤だけでなく自分たちの街づくりに投資できるのか。民間組織であるナショナル・トラストの活動には考えさせられた。

今まで幾つかの国を見てきた。新津も自慢できる自然や文化を持っている。現地ガイドの方が「街づくりは五十年単位で考えていかなければ形ができません」と言っていた。五十年後を見据えて、私の子どもたちにも伝えることが沢山あると感じた。

### 国が支え、市民がつくる アダルトスクール（生涯学習）

大墨 史子（市之瀬）

ロンドンに着いた時の第一印象は、街並みがすっきりして見えるという感じでした。夜に到着したせいもあってか、オレンジ色の街灯に白いどっしりした建物が照らされ、飛行機での疲れを癒してくれそうな、暖かな歓迎のように思えました。実際、日本のように雑多な町に見えがちな原色を使ったネオンはほとんど見られず、あってもそれほど周囲との調和を乱すものはないため、街全体が落ち着いていました。日常的に広告があふれている日本で、ネオンのない街、看板広告のない街というのは考えられません。しかしイギリスの都市や郊外を見て、看板自体あまり数は多くないものの、個性的で記憶に残る広告ばかりだったように思います。

個性的といえば、日本人は個性をうまく出すことが苦手といわれています。それは日本人気質の筆頭に挙げられる横並び意識が強いためで、日本は教育も画一的ですが、個人主義の国イギリスは教育に対する考えが日本よりも寛大であるように思いました。十六歳の義務教育終了時に働くことを選んだ人にも高等教育を与え、またあらゆる人々が望みの教育を受けられるようにするため、生涯学習の場（アダルトスクール）を各地方自治体は設けています。イギリスは教育に関して基本的に国が税金で補助するものと考え、アダルトスクールに対しても国からの助成があります。授業料も学ぶ意志のある人に平等に機会を与えるために、受講するコースや年齢等によって異なります。

新津市でもこのように制度を充実させ、学ぶ機会を増やすには、やはり優れた教師が必要となります。教師の確保がコース設定のネックになると思いますが、教える側と教わる側を限定せずに、お互いにそれぞれの得意とすることを教えあうことができれば、より地域と密接な関わりを持つことができるのではないでしょうか。高度な知識を得るには専門家に教わるのが一番ですが、地域の人がお互いの知識を持ち寄ってつくるアットホームな勉強の場が私のまわりに、新津にもっと増えたらと思います。

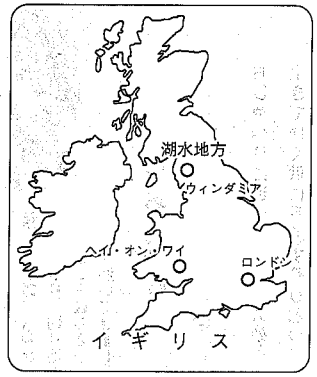
お買物、ご用命は市内で

寿司処 華舞（はなまい）
新津駅前通り
出前予約
☎23―5758
華舞コース PM8：00まで 2000円
一品料理 季節料理

住まいのガードマン
電話 (0250) 24-2287
㈲山中工務店
五十嵐便利屋サービス
新津市滝谷町19―3
●便所の改造
●雨漏り修理
●カワラの吹付
●風呂場の改造
（ユニットバスに入れ替え）

ピーターラビットの作者の家
（ナショナル・トラスト運動により100年前の姿のまま残されている）

小林さん



大墨さん

### 自由を大切にする国イギリス

小林 祐子（金沢町2）

私がこの研修に参加させていただき、一番深く心に感じたものは、現地の方の次の言葉でした。「イギリス人は自由が好き。だから動物も自由にしてあげる。そしてその環境も人まかせや行政まかせにせず自分たちで守る。」ロンドン、朝もやがたちこめる街並みを視察に出かけました。ハイドパークにはたくさんの動物が鎖や網でつながれることなく自由に散歩を楽しんでいました。犬同士が出会ってもほえたりすることもなく、なごやかにすれ違っていきます。自由に育てられると犬の性格もおおらかになるのでしょうか。公園には犬専用のゴミ箱が設置してあり、マナーを守る人を支援するよいものであると感じました。

コミュニティカレッジでは、多彩な講座内容、雑誌一冊分には、びっくりするばかりでした。イギリスでは教育は行政がするという考え方に基づき、どの講座の費用も事務手続費を負担するだけです。定員を超えた場合も曜日、時間帯、場所を少し変更すれば必ず受講できるという配慮がされています。このようなことを支える背景の一つとして、様々な公共機関が受講場所として開放されていたこと、また市民も自分にできることで指導者として自主的に参加していたことが挙げられるように思います。行政機関と市民が協力して生涯教育を支えることにより、学ぶ大きな自由が実現していることを学びました。

湖水地方では、ピーターラビットの作者ビアトリクス・ポターの生家を訪ね、ナショナル・トラスト（環境保護協会）について学びました。チャリティ組織であるのにもかかわらず、英国で最大の土地を所有し、保護しています。住民の環境を守る意識の高さに驚かされました。

ロンドン、建物は白い石造りもしくはレンガ造り、サッシは黒、色調が統一された街並みですが、建物ごとに趣向を凝らした内装や、すべての窓に飾られる草花には自由な発想があふれていました。

自分の自由を大切にするからこそ、他人の自由そして動物の自由も大切にし、その環境も市民自身で守っていく。そういう姿勢に学ぶべきものがたくさんありました。

お買物、ご用命は市内で

古くなった
給湯機、風呂釜、今がチャンス!!
給湯機取替えセール実施中 12月20日(金)まで
Wチャンス
風呂釜、給湯機、湯水器
下取りセール…オール1万円
ガス、石油給湯機 20%OFF
水まわり増改築専門店
水と住まいのふれ愛
システムショップ かねみや
INAX
本町2丁目1-11 ☎24-1630